

法律科目試験問題（刑法） 配点 50 点

次の【事例】における甲、乙の罪責について論じなさい（特別法違反の点を除く。）。

【事例】

- 1 甲は、金に困っている友人乙から、何かよい金儲けの方法はないかと相談された。甲は、Aが最近宝くじを当てて大金を持っていることを思い出し、乙に対し、一緒にA方に盗みに入ることを提案した。乙がこれに賛成したので、甲と乙は、盗みの計画を立てた。その内容は、某日、Aが留守にしていると思われる時間を狙って、乙が自動車を運転して甲をA方付近まで運び、甲がA方に忍び込んで現金を盗み、その間乙がA方付近に止めた自動車の中から見張りをし、甲が盗みを終えたら乙が運転する自動車で一緒に逃げ、盗んだ現金は折半する、というものであった。
- 2 某日、甲と乙は、乙が運転する自動車でA方付近に赴いた。下車した甲は、A方の窓からA方の中に入り、居間のタンスを物色しはじめた。  
自動車の中から見張りをしていた乙は、そのころ、A方付近に人が集まってきたのを見て犯行の発覚をおそれ、甲に電話をかけて、「人が集まっている。早くやめて出てきたほうがいい。」と言ったが、甲から「もう少し待って。」と言われたので、「危ないから待てない。先に帰る。」と一方的に伝えただけで電話を切り、自動車を運転して逃げた。
- 3 甲は、居間で物色行為を再開したが、在宅していたAに見つかってしまった。甲は、Aを脅して現金を奪おうと決意し、乙に内緒で上着のポケットに入れていたカッターナイフを取り出してその刃先を約5センチメートル出し、Aに歩み寄り、カッターナイフの刃先をAの顔面に突き付けながら、「金を出せ。出さないと殺すぞ。」と申し向けた。Aは、甲の言うとおりにしないと殺されると感じ、仏壇の引き出しを指さして、「あそこに現金の入った封筒がある。」と言った。甲は、仏壇の引き出しから現金50万円の入った封筒を取り出してズボンのポケットに入れた。  
甲は、直ちにA方の裏口から戸外に出て、逃走しようとしたが、Aも戸外に出て「どろぼう。」と叫んだため、A方付近にいたBが甲を追いかけた。甲は、A方から約100メートル離れた地点で、Bに追いつかれて捕まりそうになったため、持っていたカッターナイフでBの顔面に切り付け、同人に全治約1週間を要する下顎部切創の傷害を負わせた。